



山田晶子 教授

◆経 歴

1947年10月 岐阜県岐阜市生

学 歴

1970年3月 愛知県立大学文学部英文学科卒業

1974年3月 名古屋大学大学院文学研究科英文学専攻修士課程修了（文学修士）

1977年3月 名古屋大学大学院文学研究科英文学専攻博士課程単位取得満期退学

職 歴

1970年4月 岐阜県関市立関商工高等学校教諭（英語科）（1972年3月まで）

1974年4月 日本福祉大学講師（非常勤）（「英語」担当）（1978年3月まで）

1978年4月 信州大学教育学部外国語学科文部教官助手（「英語」3コマを担当）
（1979年3月まで）

1979年4月 岐阜経済大学講師（非常勤）（「英語」担当）（1980年3月まで）

名城大学理工学部講師（非常勤）（「英語」担当）（1979年9月まで）

1979年10月 愛知大学短期大学部専任講師（「英語」、「英文学」等担当）

1980年4月 愛知大学教養部講師（兼任）（「英語」担当）

1984年4月 愛知大学短期大学部助教授（「英語」、「英文学」等担当）

1986年10月 同朋大学講師（非常勤）（「英語」担当）（1989年3月まで）

1988年8月 文部省教員組織審査 愛知大学講師（兼任）（1989年3月まで）

- 1989年4月 イギリスのケンブリッジ大学（ダーウィンカレッジ所属）にて英文学（特にD. H. ロレンス）研究のため、客員研究員として留学（1990年3月まで）
- 1990年10月 愛知県立大学講師（非常勤）（「英語演習」、「英語」担当）（2007年3月まで）
- 1994年10月 愛知大学短期大学部教授（2005年3月まで）
- 2005年4月 愛知大学経営学部教授（現在に至る）
- 2011年4月 愛知大学大学院文学研究科教授兼任（修士課程講義担当）
- 2013年4月 愛知大学大学院文学研究科教授兼任 M[Ⓢ]およびD合昇格（修士課程演習担当・博士課程講義担当）（現在に至る）

学会及び社会における活動等

所属学会

日本英文学会（一般会員）（支部会としては中部支部会、関東支部会に所属）、2012年4月～2014年3月『中部英文学』（日本英文学会中部支部会会誌）編集委員

日本ロレンス協会（評議員）

日本シェイクスピア学会（一般会員）

名古屋大学英文学会（一般会員）

日本女性学会（一般会員）

一般社団法人

大学女性協会愛知支部奨学金委員（2011年4月～2013年3月）

講演

「シリーズ 文学に描かれた人間と愛：第1講 D. H. ロレンスの闇の思想と男女観」（大学女性協会愛知支部主催、2012年12月）

学会開催校委員および総司会（日本ロレンス協会第46回大会、愛知大学名古屋校舎にて2015年6月に開催される）

教育研究業績書

著書, 学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌又は 発表学会等の名称
(著書)			
研究書			
1. 『D. H. ロレンスの長編小説研究——黒い神を主題として』	単著	2009年 6月	近代文芸社
2. 『ロレンス研究——『チャタレー卿夫人の恋人』	共著	1998年 2月	朝日出版社
3. 『D. H. ロレンスとモダニズムの作家たち』	共著	2003年 9月	英宝社
4. 『ロレンス研究——『越境者』』	共著	2003年12月	朝日出版社
5. 『ロレンスへの旅』	共著	2012年 3月	松柏社
6. 『21世紀の D. H. ロレンス』	共著	2015年10月	国書刊行会
7. 『ロレンスの短編を読む』	共著	2016年 1月	松柏社
翻訳書			
1. 『不倫』(原作 D. H. ロレンス <i>The Trespasser</i>)	単訳	1993年 5月	近代文芸社
2. 『アルヴァナの墮落』(原作 D. H. ロレンス <i>The Lost Girl</i>)	単訳	1997年 7月	近代文芸社
3. 『ごらん 僕達勝ったんだよ!』(原作 D. H. ロレンス <i>Look! We Have Come Through!</i>)	共訳	2002年 3月	三愛企画
4. 『D. H. ロレンス書簡集III 1912』	共訳	2005年 3月	松柏社
5. 『D. H. ロレンス書簡集VI 1915』	共訳	2011年 4月	松柏社
(学術論文)			
1. 「パストラム・ポエムとしての “The Immortality Ode”」	単著	1977年 5月	名古屋大学英文学会『IVY』第14巻
2. 「『恋する女たち』論考—「牢獄からの脱出の可能性—」	単著	1978年 6月	信州大学『教育学部紀要』第39号
3. 「『ティンタン・アベイ』論考—ワーズワスの心の風景—」	単著	1978年12月	信州大学『教育学部紀要』第40号
4. 「『チャタレー卿夫人の恋人』と現代—ロレンスの描く不倫の特異性について—」	単著	2007年 3月	名古屋大学英文学会『IVY』第39巻
5. 「人間と金銭——『クリスマス・キャロル』と『木馬の騎手の勝利』の比較研究」	単著	2012年 2月	愛知大学文学会『文学論叢』第144輯
6. 「On the Uses of the Words “Will” and “Inhuman” in D. H. Lawrence: a Study of <i>The Woman Who Rode Away</i> and <i>The Princess</i> (Part I)」	単著	2012年 2月	愛知大学文学会『文学論叢』第145輯
7. 「On the Uses of the Words “Will” and “Inhuman” in D. H. Lawrence: a Study of <i>The Woman Who Rode Away</i> and <i>The Princess</i> (Part II)」	単著	2012年 7月	愛知大学文学会『文学論叢』第146輯
8. 「A Study of <i>The Virgin and the Gipsy</i> : D. H. Lawrence’s Essential Attitude towards Christianity」	単著	2013年 1月	愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第28号

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称
9. 「D. H. ロレンスのフェミニズム」	単著	2013年 7月	愛知大学文学会『文学論叢』第148輯
10. 「A Study of <i>The Fox</i> : D. H. Lawrence's Idea of Duality」	単著	2017年 1月	愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第36号
11. 「A Study of <i>The Escaped Cock</i> : D. H. Lawrence's Quest for Pagan Harmony」	単著	2017年 7月	愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第37号
(学会発表)			
1. 研究発表「『ティンタン・アペイ』論考—ワーズワスの「心の風景」—」	単独	1975年10月	日本英文学会中部地方支部第28回大会
2. 研究発表「『恋する女たち』について—牢獄からの脱出の可能性—」	単独	1977年10月	日本英文学会中部地方支部第30回大会
3. 研究発表「 <i>The Rainbow</i> について—ロレンスの求める reality とは何か—」	単独	1984年 5月	日本ロレンス協会第15回大会
4. 研究発表「 <i>Aaron's Rod</i> 論— 'singleness' について—」	単独	1991年 5月	日本ロレンス協会第22回大会
5. 研究発表「 <i>Kangaroo</i> 論— 'The Dark God' について—」	単独	1991年10月	日本英文学会中部地方支部第42回大会
6. 研究発表「D. H. Lawrence と “the invisible” — <i>ST. MAWR</i> を中心に—」	単独	1993年 5月	日本ロレンス協会第24回大会
7. シンポジウムでのパネリスト「ロレンス・モダン／ロレンスコンテンポラリー」：ロレンスの『闇』とコンラッドの『闇』	共同	2002年 6月	日本ロレンス協会第33回大会
8. 研究発表「The Germ of “The Dark God” in <i>Sons and Lovers</i> 」	単独	2003年 6月	第9回国際ロレンス学会
9. 「『チャタレー卿夫人の恋人』と現代—ロレンスの描く不倫の特異性について—」	単独	2006年 4月	名古屋大学英文学会第45回大会
10. 研究発表「The Symbolic Meaning of the Snake and the Sickle: a Study of “England, My England”」	単独	2014年 6月	第13回国際ロレンス学会
(翻訳)			
1. クリストファー・ポルニッツ著『処女強奪：D. H. ロレンスの詩における黒い神』(1)	単訳	2000年 3月	愛知大学一般教育研究室『一般教育論集』第18号
2. D. H. ロレンス／M. L. スキナー著『森林の少年』(一)	単訳	2000年 7月	愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第3号
3. クリストファー・ポルニッツ著『処女強奪：D. H. ロレンスの詩における黒い神』(2)	単訳	2001年 3月	愛知大学一般教育研究室『一般教育論集』第20号
4. D. H. ロレンス／M. L. スキナー著『森林の少年』(二)	単訳	2001年 7月	愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第5号
5. D. H. ロレンス／M. L. スキナー著『森林の少年』(三)	単訳	2003年 2月	愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第8号

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌又は発表学会等の名称
6. D. H. ロレンス/M. L. スキナー著『森林の少年』(四)	単訳	2004年7月	愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第11号
7. D. H. ロレンス/M. L. スキナー著『森林の少年』(五)	単訳	2005年1月	愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第12号
8. D. H. ロレンス/M. L. スキナー著『森林の少年』(六)	単訳	2005年9月	愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第13号
9. D. H. ロレンス/M. L. スキナー著『森林の少年』(七)	単訳	2006年1月	愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第14号
10. D. H. ロレンス原作『ポール・モレル』(一)	単訳	2011年1月	愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第24号
11. D. H. ロレンス原作『ポール・モレル』(二)	単訳	2012年1月	愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第26号

(書評)

1. 「The D. H. Lawrence Society of Korea. <i>D. H. Lawrence Studies</i> Vol. 12 No. 2 (2004)」	単著	2006年3月	日本ロレンス協会『D. H. ロレンス研究』第16号
2. 「Carey J. Snyder. <i>British Fiction and Cross Cultural Encounters: Ethnographic Modernism from Wells to Woolf</i> (Palgrave Macmillan (2008))」	単著	2010年3月	日本ロレンス協会『D. H. ロレンス研究』第20号
3. 「Judith Ruderman. <i>Race and Identity in D. H. Lawrence: Indians, Gypsies, and Jews</i> (Palgrave Macmillan, 2014)」	単著	2015年3月	日本ロレンス協会『D. H. ロレンス研究』第25号
4. 「Richard Owen. <i>Lady Chatterley's Villa: D. H. Lawrence on the Italian Riviera</i> 」	単著	2017年3月	日本ロレンス協会『D. H. ロレンス研究』第27号

(教育活動)

1. エッセイ「「新しいFD」とは何か」	単著	2002年10月	愛知大学FD委員会発行『FDニュース』第5号
2. 第2回読売教育シンポジウム参加報告	単著	2003年2月	愛知大学FD委員会発行『FDニュース』第6号
3. エッセイ「FDについての公開授業の意味」	単著	2003年6月	愛知大学FD委員会発行『FDニュース』第7号
4. 2003年度「大学の教育・授業を考えるワークショップ」参加報告	単著	2003年10月	愛知大学FD員会発行『FDニュース』第8号
5. 2004年度IDE大学セミナー参加報告	単著	2004年10月	愛知大学FD委員会発行『FDニュース』第11号
6. 第10回FDフォーラム参加報告	単著	2005年6月	愛知大学FD委員会発行『FDニュース』第13号
7. 授業改善研修への参加及び成果レポートの公表「大学教員セミナー」	単独	2005年9月	大学セミナーハウス

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会等の名称
8. エッセイ「未知への旅」	単著	2005年7月	愛知大学名古屋語学教育研究室 『Goken News No. 13』
9. エッセイ「フランケンシュタインの真実」	単著	2005年12月	愛知大学名古屋語学教育研究室 『Goken News No. 14』
10. エッセイ『『ギリシア・ローマ神話』と現代(1) —花に変身した美少年たち—	単著	2006年7月	愛知大学名古屋語学教育研究室 『Goken News No. 15』
11. エッセイ『『ギリシア・ローマ神話』と現代(2) —新惑星エリスの名前の由来—	単著	2006年12月	愛知大学名古屋語学教育研究室 『Goken News No. 16』
12. エッセイ『『ギリシア・ローマ神話』と現代(3) —クレタ島にまつわる種々の伝説—	単著	2007年7月	愛知大学名古屋語学教育研究室 『Goken News No. 17』
13. エッセイ「D. H. ロレンスの自然観：短編小説 「太陽」に関して」	単著	2007年12月	愛知大学名古屋語学教育研究室 『Goken News No. 18』
14. エッセイ「D. H. ロレンスのキリスト教批判と異 教への傾倒」	単著	2008年7月	愛知大学名古屋語学教育研究室 『Goken News No. 19』
15. エッセイ「D. H. ロレンスの動物の描写について」	単著	2008年12月	愛知大学名古屋語学教育研究室 『Goken News No. 20』
16. エッセイ「D. H. ロレンスの作品における動物の 描写について（その2）」	単著	2009年7月	愛知大学名古屋語学教育研究室 『Goken News No. 21』
17. エッセイ「D. H. ロレンスの作品における動物の 描写について（その3）」	単著	2009年12月	愛知大学名古屋語学教育研究室 『Goken News No. 22』
18. エッセイ「D. H. ロレンスの作品における動物の 描写について（その4）」	単著	2010年7月	愛知大学名古屋語学教育研究室 『Goken News No. 23』
19. エッセイ「短編小説『春の陰影』一考」	単著	2010年12月	愛知大学名古屋語学教育研究室 『Goken News No. 24』
20. 教育エッセイ「D. H. ロレンスの作品に見られる 赤色の意味について」	単著	2011年7月	愛知大学名古屋語学教育研究室 『Goken News No. 25』
21. エッセイ「D. H. ロレンス作『処女とジプシー』 に登場する黒い男」	単著	2011年12月	愛知大学名古屋語学教育研究室 『Goken News No. 26』
22. エッセイ「ガルダ湖のほとりでロレンスに「再 会」して——第13回国際ロレンス学会への出席」	単著	2014年12月	<i>Aichi University Lingua</i> No. 5 (Institute for Language Education, Aichi University)
23. エッセイ「ロレンスの青い花（その1）」	単著	2015年7月	<i>Aichi University Lingua</i> No. 6 (Institute for Language Education, Aichi University)
24. エッセイ「ロレンスの青い花（その2）」	単著	2015年12月	<i>Aichi University Lingua</i> No. 7 (Institute for Language Education, Aichi University)
25. エッセイ「D. H. ロレンスへの深い畏敬と激しい 憧憬の40年間」	単著	2017年12月	<i>Aichi University Lingua</i> No. 11 (Institute for Language Education, Aichi University)